

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



新井貴子さん、内盛美生さん、隅田風太さんと根原富也さんは今年15の春を迎え、竹富中学校を卒業して島から旅立って行く。4人はとても良いバランスでお互いの違いを受け入れ合い、それぞれの個性を大切に守っているように見える。そんな彼らを一緒に撮影したくて、よく晴れた土曜日の朝、コンドイビーチに集合してもらった。

撮影から数日後、一人一人を訪ね、幾つかの同じ質問を投げかけてみた。答えそのものよりも、話し方、姿勢や表情にそれぞれの意志や想いがにじみ出ていて彼らの本心に少しだけ触れさせてもらった気分になった。

「あなたの夢は、何ですか？」という質問に、「小学生の頃は、俳優になりたいという夢があったけれど、中学生になって諦めていた。今年、同級生のみんなと将来の夢について話し合ったことがきっかけで、もう一度目指したいと思うようになった」と1人が真剣な面持ちで答えてくれた。そのことを他の3人に伝えると、反応はそれぞれ違ったが、1人が何気なく発した「何も考えていないようで、実はみんな考えているんですよ」という言葉が心に響いた。

その声には、共感と信頼とほんの少しの切なさがあり混ざったような大人びた音があった。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。